

No.21

1998年

(平成10年)

同窓会だより

— 発行 —

旭川厚生専門学院
同窓会

岡山市祇園地先

TEL (086) 275-0145

FAX (086) 275-3283

— 編集責任者 —

同窓会会長 中尾 絹江

出会いを求めて

同窓会会長

中尾 絹江

同窓生の皆様方におかれましては、益々御健勝のことと存じます。私たちが取りまく社会では様々な出来事があり、いまや景気の低迷で失業者が溢れている一方では、サッカーワールドカップ、フランス開催で世界中がお祭り騒ぎでした。

また日本では高齢化社会が深刻であり、二十一世紀に向け新たな福祉対策が要求されていることは申すまでもありません。

物質的豊かさの時代から「心の豊かさ」「自分で自分を豊かにする生活」を実現させたいものです。そこで今年は同窓会総会の年です。役員が知恵を絞っていろいろな考案し、新しい出会いの場として別コーナーにご紹介させて頂いている先生と御一緒しませんか。また同窓生同士でも顔見知りの方ばかりではなく、懐かしい再会が待っているかもしれません。十月十七日各地からの御参加を楽しみにしております。

でもありませんが、私たちがも年を取ることを含め『生きていてよかった』と実感できる生活をめざしているのは誰でしょうか。



旭川荘創立四十周年記念式典

旭川荘は昨年40周年を迎え、今年6月、「荘内」と「荘外」の関係者を対象に、2回にわたり、記念式典が盛大に行われました。

第五回同窓会
岡山支部会を終えて

岡山支部長 西野 順子

盛夏の候、同窓会の皆様方にはご健勝でご活躍のことと、心からお喜び申し上げます。先日二月十四日は、ご多忙中にもかかわらず同窓会岡山支部会に、ご出席頂きまして誠にありがとうございました。

今回の支部会の内容と致しましては、恩師、旧同、会員の皆様方の近況報告並びに生バンドによる演奏と歌、くじ引きによる全員にプレゼント交換ができました。お陰様で、盛大且つ充実した盛り上がりをもって有意義な会となりました。

広島支部だより

広島支部長 松田 憲尚

皆さんお元気でしょうか。先日休暇の合間に二泊三日の家族キャンプに雨天決行して参りました。何しろ初めての試みであり、用具の買い出しに毎週日曜日連続四回も同じスポーツ店に通いました。テントも現地で初めて開くと買った有様でしたが食事のメニューの準備をはじめ、家族のキャンプ熱はものすごいものでありました。鳥取の日本海沿いは、幸いにも夜は涼しくラジタンを灯しても虫は舞って来ず、快適なテント生活が体験できました。他のグループや家族連れもそれぞれ思いのまま楽しんでるようでしたが、雨

関西支部だより

関西支部長 吉川 千代子

阪神・淡路大震災から三年を経過するなか明石大橋も完成し、夜景のあでやかさに一段と、にぎあひ盛り上がりつつある関西地区です。

暑い夏、各地での御活躍の皆さま

が強くなりそうだといい、テントをたたみ帰り支度をする子連れの家族やただテントに寝るだけのグループとといった具合に個々の思いのままの集まりのあたりになりました。

私たちは、患者と家族の生活の充足感を満たすことを目的に介入手段を日々模索していますが、専門職として目的を同じくしてその理想を常に追いつめるために、今の問題を本当に見つめているだろうか、ふとそんなことに思いを巡らしました。

休日の合間と言いましたが、出かける前に朝五時から血液浄化を二例行い、帰路夜中の十時には緊急手術で呼び出しがかかると言った具合に、相変わらず忙しい毎日を送っています。同窓生の皆様の頑張り、励みになっています。今日このころであります。

におかれましては日々、めまぐるしく変化する医療情勢のなかにおいても、学院で培われた精神で乗りこえて居られることと存じます。

今年も総会の年です。わたしたちの学院をより一層の繁栄させるために、同窓生の一人一人の力が必要です。皆様のパワーを学院に結集して総会を盛り上げて行くことは在りませんか。御協力のほどよろしくお願い致します。

これもひとえに会員の皆様方、学院の先生方のお力添えがあったからだと思ふ感謝致しております。

今後、岡山支部会は五年に一度となりますので、平成十五年の開催となります。二十一世紀を目前にして保健、医療、福祉の構造改革が多面的に進められておりますが、そうしたなかで、昨年十二月には介護保険法が成立し、介護保険制度が創設され、平成十二年より実施されます。介護保険制度の実施に伴い、介護支援専門員が多くなる職種に開かれました。二十一世紀に羽ばたく優れた専門職員を学院で育成し、それぞれの専門分野を生かした職場に就職できることが必要となってきます。

十五年度には、会員の皆様の専門分野での活躍と情報交換ができることを望んでいます。それまで先生、皆様の健康とご多幸を願っております。

「高齢化社会に向けて」



学院長 竹本 博明

同窓生の皆様、こんにちは。お元気に活躍のことと存じます。

今年の岡山は、桜の花も桃の花も一週間ほど早くから咲き始めました。そのせいか実の熟すのも早く、果物を栽培している農家は出荷が大変なようです。また梅雨も例年より期間は長く、明けたのは七月の末日でした。しかし期間中の降水量は少なく、好天の続いた日もあり、桃や葡萄の糖度はなかなかのようです。

さて、問題になっていた介護保険法の成立、児童福祉法の改正などがあり、医療福祉の方向も少し色合いが変わってきています。高齢化、少子化と言われている現象も急ピッチで進み、総理府の一九九八年版高齢者白書によると、六五才以上の高齢者が史上初めて一四才以下の子供の数を上回り全人口の一五・九％に達し、二〇五〇年には三二・三％と三人に一人が六五才以上の高齢者になると予測されています。また、全国老人クラブ連合会が会員を対象に実

施した「高齢者の不安」に関するアンケート調査結果によると、回答者全員が日常生活全般に何らかの不安を持っており（調査項目一二中全て六〇％以上）、なかでも「自分が病気になること」「介護が必要になること」「孤独になること」への不安は八〇％を越えています。

核家族化が進むなかで、これまで強い絆であった地縁や血縁は薄れかけ、高齢者はいろいろな不安を抱えて生活していかなければならなくなっています。看護とか介護とか単に表に表れてくる事象だけでなく、日常生活のなかでどう関わりを持ち生活全体をどのようにサポートしていくか、新しい福祉社会における人と人とのあり方、単に共生と言う言葉だけでなく早く急に構築していかなければならない問題でしょう。

技、施設でのボランティア実習とつぎつぎと暑いなかでメニューを消化していく高校生に頼もしさを感じるとともに、こうした行事への取組の重要さを改めて感じました。

学生たちは第一期を終り夏休み、施設のバイトに精出す者、追再試に単位をかける者など例年と変わっていません。最高学年は各科目とも臨地実習の前半を終わり、症例研究取り組みはじめたり、就職が気にかかりはじめたりしているようです。

就職といえば年々難しくなり、どこも採用試験をするようになりましたが、先輩方のこれまで積み上げてこられた実績のおかげで、学院という信用が役立つこともしばしば、大変心強く感謝しています。しかし、いつまでも先輩の遺産を食べているわけにもいきません。新しい社会の流れのなかで、先輩たちに負けないだけの専門職をどう育てていくか、大きな課題です。

また、一八才人口が減少し、大学に医療福祉関係学科の増加していくなかで、皆さんの後輩たちをこれからどう受け入れていくかも悩ましい問題です。社会から専門学校としての有り様を、真価を問いたおされていると思います。建学の精神「敬天愛人」をあらためて学院の諸活動の基盤として胸に秘め、これからの高齢化社会を支える人材養成に、二一世紀に向かつて歩いていこうとしています。

諸先輩方の母校への熱い思いを、ご指導の言葉をお聞かせください。

学院だより

入試情報

入学試験期日の決定（全学科同一日）

推薦入試 十月二十五日（日）

一般一次入試 一月三十一日（日）

一般二次入試 三月七日（日）

社会人入試 三月十八日（日）

試験場は、すべて本学院です。

（推薦のみ那覇市でも実施）

○願書受付は、試験日の約一ヵ月前からです。

○入試要項・願書は学院入試事務室宛、郵便為替（千円）同封の上請求のこと。

主な年間行事

★入学宣誓式（4月4日）

平成10年度の入学学生は、児童福祉科三名、介護福祉科八五名、福祉情報科一四名、福祉研究科二六名、第1看護科九五名、第2看護科五六名、総計三〇九名。

★修学旅行（9月2日～9月5日）

各科の二年生と第2看護科一年生が全員参加します。デンマーク、上海、北海道、関東、関西、四国、沖縄の7方面へ希望別に参加し、社会福祉施設や病院の見学と交流をはかっています。

★キャンパスサービス（10月13日）

児童福祉科、介護福祉科、福祉情報科、福祉研究科の各一年生が学院講堂に於いて、保護者・来賓臨席のもと、福祉の道へ進む決意を固めるものです。

★就職式（10月15日）

第1看護科、第2看護科の一年生

が学院講堂に於いて、保護者・来賓臨席のもと、看護婦（士）の道へ進む決意を固めるものです。

★第26回学院祭（10月30日～31日）

学院生の自主的活動によって実施する。各科・有志の研究成果や出し物が中心になり、地域・施設の方々もたくさん見学に訪れます。

★卒業演奏会（2月下旬）

児童福祉科二年生の学習の総まとめとして、岡山県総合福祉会館にて開催します。

★卒業証書授与式（3月13日）

卒業生三〇〇余名の卒業を、多数のご来賓・ご家族の皆様を学院講堂に迎え、共に卒業生の前途を祝福します。

同窓会員数

平成10年3月現在（平成10年3月卒業生）

同窓生総数	4,929名	(330名)
保育科・児童福祉科	1,077名	(48名)
福祉科・介護福祉科	634名	(99名)
福祉研究科	53名	(18名)
福祉情報科	164名	(18名)
第1看護科	1,474名	(93名)
看護科・第2看護科	1,527名	(54名)

卒業生からのおたより

児童福祉科

児童福祉科 荒木直美
二十四期生

突如其来に込んだこの同窓会だよりの原稿の依頼。引き受けたものの原稿用紙を前にしばらく考えていたが、近況を楽しくというお言葉に甘えてその通り回答させていただきます。

(近況その一) 仕事は楽しいことばかりではありませんが、トータルで考えてみると楽しいことの方が多いです。とてもいい仕事仲間達に恵まれ、大変なことでも嫌なことでもそんな仲間と一緒に乗り越えてこれたと思えるし、これからも乗り越えていけるだろうと確信しています。

(近況その二) 運動不足の解消、腰痛の軽減、ダイエットの三つを目標にスポーツクラブに通い始めました。まだまだ効果は見えてきていませんが、お金もかかっていることですし、くじけずに頑張ろうと目指せナイスボディ!!

最後になりましたが、児童福祉科二十四期生の皆さん、お返事「のその日までお互いにお仕事を頑張りました!!」

介護福祉科

介護福祉科 上杉宜子
八期生

卒業して、はや一年以上が経ちました。私は、西大寺にある老人保健施設へ就職しました。平成九年八月に開設だったので、それまでは準備期間として、「一日の流れ」「業務内容」など、全て一から決めることから始めました。本当に、今や業務がスムーズに流れ始めたところ

です。

介護士という仕事につき、お世話をするのが仕事といえども、「どうしてそんなことするの?」と、腹の立つこともしばしばありますが、何かフツとしたときに、おじいちゃんおばあちゃん達からの「ありがとう」という言葉で、全てが吹き飛んでしまいます。利用者一人一人を、だんだん理解できていくことの嬉しさを感ぜながら、とても楽しく仕事をしています。

介護の原点である「やさしさ」を常に頭におき、「親切」だけがやさしさではないということも忘れず、がんばっていいと思います。これからの介護を私達がよりよくしてい

くよう努力していきましょう。私も、介護をつくる介護士としてがんばっています。

最後に介護士になって、この仕事を選んでよかったと心から実感しています。

福祉研究科

福祉研究科 坂手さゆり
三期生

福祉研究科の三期生の皆さん、お元気ですか?早いもので学院を卒業して約四ヶ月が過ぎようとしています。

特別養護老人ホームに就職して、最初の二ヶ月は緊張と不安で一日が過ぎていきました。最近はずっとですが職場に慣れてきたように思えます。そして、今は勉強の毎日です。学生の時に先生方々に「卒業したからといって勉強が終わるのではなく、就職してからの方が勉強することが多い。」と言われたことを思い出し、実感しています。

最近、業務で一日が過ぎていく中、心にゆとりがないなと思った時、利用者の方の笑顔を見たら自分自身がなげなく、もう少し心にゆと

りを持たないといけないと感じました。そうしなければ、よりよい介護をしていけないと思っているからです。これから、自分自身を磨いていくことは、自分への課題だと思いついていきたいと思います。

最近、研究科の実習生が来られており、あれから、もう一年過ぎていくのだと思うと、皆様に会いたくなりました。お互いに忙しい毎日だと思いますが、クラス会などで会えることを楽しみにしています。

福祉情報科

福祉情報科 三上美智子
五期生

お世話になった先生方、福祉情報科・五期生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。早いもので私達が学院を卒業して二年がすぎましたね。学院で勉強していた日々が昨日のことのように思い出されます。

私は現在、岡山市内にある病院併設の老人保健施設で介護職員として働いています。まだまだ未熟者なので、利用者との心の疎通がうまくできなかつたり、思うような援助がでなかつたりして、何度もくじけそうになりました。その度に、利用者の笑顔や「ありがとう」ということに励まされます。利用者から教えられることも多く、自分自身も成長していかなければと思います。

今年、福祉情報科のよき後継が二人、就職してきました。よりよい援助ができるよう、共に学び、頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが、先生方、同期生の皆様の益々のご多幸を心からお祈りいたします。お会いできる日を楽しみに待っています。

第一看護科

第一看護科 福岡秀佳
十五期生

ようやく夏も盛りを過ぎ、吹く風にも秋の訪れが感じられる季節となりました。早いもので、卒業生の皆様におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。早いもので私も学院を卒業してから四年目を迎え、現在、消化器外科病棟に勤務しております。私達の病棟は、肝臓疾患がメインであり、なかでもこの数年は、先天性胆道閉鎖症の患者さんに対する生体肝移植に力を注いでいます。

初めての移植の時には、勉強会や看護手順・スタンダードケアプランの作成など、やらなければならぬことが山のようにあり、ただひたすら業務に追われているという感じでした。いざレシビエントが入院してきても、幼児期・思春期・青年期と年令的にも私達が通常関わっている患者さんとは異なり、とまどいもありました。又、移植を受ける患者さ

同窓会総会 開催日程

1998年10月17日(土) 10時～14時 岡山カルチャーホテル於

10:00 講演「自分らしさの創造」 井久保 伊登子先生
11:30 総会
12:00 懇親会
14:00

※ 参加ご希望の方は9月末日までに学院同窓会係までご連絡ください。
Tel: 086-275-0145

第二看護科

第二看護科 小林美枝
二十一期生 (旧渡部)

人には、術前より感染予防のための吸入や免疫抑制剤の内服が開始となる他、術後クリーンルームや個室で長時間管理されることによるストレス、術後合併症(拒絶反応、感染など)、将来への不安等、様々な問題があり、看護の難しさ、看護婦という仕事の奥深さを感じている今日近頃です。

学院を卒業してから六年目を迎えました。二十一期生の皆さんお元気ですか。忙しい業務に毎日追われていますが、病院実習に來ている学

井久保伊登子先生 プロフィール

一九三六年 岡山市に生まれる
一九五八年 熊本大学国文学科卒業
一九七五年 岡山大学医学部卒業
一九七九年 赤穂記念病院に勤務

詩誌「黄薔薇」

随筆誌「女人随筆」同人

「岡山女性史研究会」会員

著書「近代岡山の女たち」

(共著・三省堂) 一九八七年

「そうめんばち」 一九九一年

(手帖舎)

「水かきみ」 一九九一年

(ミネルヴァ書房) 一九九一年

「岡山の女性と暮らし」戦後編

(共著・山陽新聞社) 一九九三年

「カルテに書かなかったこと」

(青土社) 一九九三年

「残りの秋」

(かもがわ出版) 一九九五年

これからも一生懸命頑張っていくと思います。

生さん達を見ていると学院に通っていたときのことを懐かしく思います。児童院でのアルバイトや、記録が書けなくて辛かった実習期間、今思えば良い思い出です。

私事ですが、昨年の春に結婚をして現在、実習病院でもあった川崎病院で働いています。結婚当初は、家事と仕事を両立させようと頑張っていました。結局は家事の手を抜いている次第です。今勤務している病棟は、ワンフロアの病棟で老人が

「声が聞こえて」
(編集工房ノア) 一九九八年
現住所
〒七〇三三八二五六
岡山市浜三丁目八一

「そうめんばち」を読んで

各々の生活史から生まれ、育まれた生命が果てる有り様には、かつて結婚をし、子どもを産み育てた頃、働き盛りだった頃のあの姿は、消しゴムで消されてしまったかのようで、病んでひくつになった老体だけが社会の片隅に転がされているイメージが頭から離れない。

著者は医師という視点のみならず、同じ立場で生きている人としてそれらを、いたたまれない、割り切れない気持ちで文章から伝わってくる。

(感想の「カット」) 中尾記

人事異動

退任の先生

福祉情報科・書記

高田 理恵

小川 佳彦

松本 定

別惣 淳二

飛田明日香

元川三木恵

介護福祉科

元川三木恵

介護福祉科

元川三木恵

介護福祉科

元川三木恵

介護福祉科

元川三木恵

介護福祉科

元川三木恵

介護福祉科

元川三木恵

多く、日夜、痴呆や夜間せん妄のある患者さんとかかわっています。手術後の患者さんがいるときは胃が痛くなる思いをすることもありますが、優しく楽しいスタッフに囲まれ毎日楽しく(！)働いています。今後は子供が出来たら子育ても加わると思うと少し気が遠くなりそうな感じがしますが、お互いに身体に気をつけて頑張ります。また皆さんと会える日を楽しみにしています。

編集後記

福祉情報科 品川 住満
看護科 北村 理絵
書記 東山久美子
講師 嶋野 元一



初秋の候、同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年は編集後記の趣向を少し変えて学院内同窓会役員の写真を載せてみました。知った顔知らない顔色々あると思いますが、ぜひ一度学院へおいで下さい。

時節柄ご自愛のほど、十月の総会で皆様にお目にかかれるのを楽しみにしております。